

群馬県桐生市蛇留地域の地質 (予報)

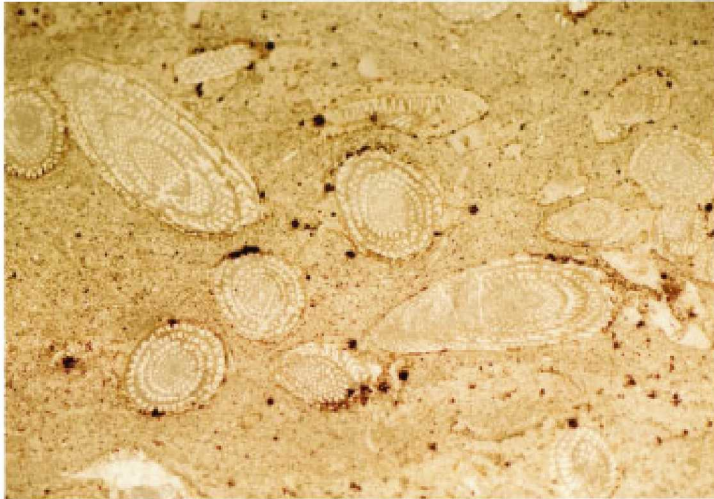


Fig. 2 フズリナ

1cm

演者はこれまで、栃木県佐野市北部及び鹿沼市西部に分布する足尾帯ジュラ紀付加体の地質学的検討を行ってきた。研究地域はチャート-碎屑岩からなる地質単元の繰り返しによって特徴づけられ、主にチャート、砥石型珪質頁岩、砂岩、頁岩、礫質頁岩、及び少量の緑色岩、石灰岩から構成されている。チャートからは三畳紀中期～ジュラ紀前期の放散虫が、砥石型珪質頁岩からは三畳紀前期のコノドントが、碎屑岩からはジュラ紀中期の放散虫化石が得られている。

鈴木紀充

生命環境科学・地球進化
生物圏変遷科学分野二年

今回これまでの研究地域の西方約 10km に位置する群馬県桐生市蛇留地域の予察的検討を行ったのでその概略を報告する。蛇留淵地域からは林・コノドント団体研究グループ(1979)、小泉(1988)等の研究により、ペルム紀三葉虫、腕足類等が報告され、ペルム系碎屑岩の分布することが知られている。演者は蛇留淵の北西にある小沢に露出する石灰岩、砂質石灰岩、チャート、碎屑岩の岩相・年代的検討を行った。石灰岩からは *Parafusulina* sp. 等のペルム紀のフズリナ化石を、砂質石灰岩からは *Parafusulina yabei*, *P. kuzuensis* 等ペルム紀中期のフズリナ類と *Yatsengia* cf. *kuzuensis* や腕足類を、またチャートからは保存不良ながら、*Triassocampe* 属と *Stichocapsa* 属の放散虫を識別することができた。これらの放散虫の年代に関しては三畳紀中期と考えられる。砂岩優勢な砂岩頁岩互層を主体とする碎屑岩には生物擾乱を含めた堆積構造が顕著で、地層の上限判定が可能である。またこの頁岩には腕足類の破片も含まれ、ペルム紀中期の碎屑岩と考えられる。ここではこれらの古生物学資料を報告し、筆者及び先行研究との比較をもとに、蛇留淵地域の地質学的意義について述べる。

(座長：佐藤雄大)

連絡先

小澤 佳奈 (生命環境科学4年)
kanaoz@geol.tsukuba.ac.jp
大山 広幸 (生命環境科学研究科3年)
hyamah@geol.tsukuba.ac.jp
興野 純 (生命環境科学)
kyono@geol.tsukuba.ac.jp

次回のお知らせ

日時：5月9日(水) 17時より

発表者：西澤暁子 (生物圏変遷科学2年)
原まゆ子 (生物圏変遷科学2年)

座長：堀内 悠 (地圏変遷科学5年)